基本様式４

指定管理施設の管理運営評価票（評価対象年度：平成 25 年度）

施設所管部署	健康福祉部長寿福祉課
評価対象期間	平成 25 年４月１日　～　平成 26 年３月 31 日
評価対象年度指定管理料	131,350,846 円

１　施設の概要等

施設の概要	名称	焼津市立養護老人ホーム「慈恵園」
	所在地	焼津市大覚寺三丁目２番地の３
	設置目的	老人福祉法第 11 条の規定により概ね 65 歳以上の者であって環境上の理由及び経済的理由等により、居宅において養護を受ける事が困難な者を入所させ、介護・給食・健康管理・生活指導等を行い、生活の安定と福祉の増進を図ることを目的に設置
	設備の概要	（施設面積）2,401.01 ㎡ （施設構造）鉄筋コンクリート２階建て （施設内容）定員 60 人 ２人部屋　16 室 個室部屋　32 室　（視覚障がい者対応居室４室含む）

２　指定管理者の概要等

指定管理者	名称	社会福祉法人　焼津福祉会
	所在地	焼津市大覚寺三丁目２番地の１
指定管理業務の内容		○焼津市立養護老人ホーム指定管理者管理運営仕様書 別表１及び別表２に定められた事項（別紙参照）
指定期間		平成 21 年４月１日　～　平成 26 年３月 31 日

３　指定管理者業務運営項目評価

評価項目	指定管理者		市	
	自己評価	評価の理由	評価	評価の理由
１．施設体制に関する評価	B	・種々の事情のために生活が困難な方の緊急ショートの受入により地域のセーフティーネット的役割を果たした。 ・施設長が職員一人ひとりの研修計画を立て、それに基づき静岡県シルバー人材センター等が主催する研修会に参加した。また参加した職員は、必ず外部研修の報告を会議時におこない職員の質の向上を図った。 ・緊急時の対応力を強化するため、看護師が講師になりノロウイルス	B	職員研修の計画的な実施による職員のスキルアップや定期的な防災訓練の実施による利用者の安全確保・危機管理意識の向上に努めている。特に、災害等に対応するための訓練は、独自の訓練方法により実施されており、地元との連携も図られている。 また、事業報告も苦情や

		等の感染症対応、心肺蘇生方法、窒息時の対応のロールプレイをおこなった。 ・東北大震災を契機に訓練の重要性を再確認した。考えられる最悪事態を想定し毎月１回訓練を実施しており２５年度は原子力防災訓練をおこなった。非常災害、事故等の緊急発生時に備えてＢＣＰ（慈恵園事業継続計画）の作成や、緊急連絡網を使用し地元自治会の役員、地域住民に夜間想定の訓練参加をお願いした。 ・入所者の通帳取扱者と金庫の取扱者を別にしている。 ・利用者の個人情報の保護を図り、情報の紛失、漏洩、改ざん等を防ぎ情報管理に関する社会的責任を果たした。また、保存年数が切れて文書を破棄する際は、専門業者に破棄を依頼し個人情報の流出の防止に努めた。		事故情報など詳細に毎月報告されており、それらの情報を施設職員全員に回覧し共有する体制がとられ職員の連携が図られている。 ただし、重大な事故等について、当課への報告が事業報告書による事後報告となってしまっているため、生命等に係る重大な案件については随時報告するよう図られたい。
２．サービス内容や水準に関する評価	B	・苦情を申し出る利用者の「思いをまず受け止める、傾聴する」を基本にした。苦情の申し出を傾聴し改善していくことでサービスの向上になると意識している。その場で結論が出る事柄には説明や納得していただき、そうでない事柄は職員で話し合い後報告している。自分の思いを示す事が困難な利用者には、日頃の関わりや観察等をとおして潜在的なニーズを掘り起こす努力をしている。 ・「利用者アンケート」により、直接利用者と話をすることで、今後の生活について要望等を聞き、本人の要望に沿った支援を行った。	B	苦情の処理については昨年同様、利用者の傾聴に努めていただいており、より利用者から詳細な意見を聞き入れる体制がとられている。 ただし、当課の措置担当者が施設を訪れた際に、指定管理者への苦情があり、利用者の個人的な感情的な部分もあるが、そういったことがあったという事実を踏まえ、今後の施設運営に努めてもらいたい。
３．収支等の評価	B	・予算書作成に当たっては、前年度の留意点を踏まえ各職種の意見を聞き作成している。理事会の承認を得て、執行を行っている。また、予算流用は理事長の承認を必ず得て適切におこなっている。 ・適切な事務処理や会計処理を行う上で、会計処理を出納責任者のみに任せるのではなく、資金の運営管理等について組織内部の内部牽制体制を常に意識した運営をおこなった。専決規程に基づき決裁をおこない、施設会計の資金の移動をさせる場合は必ず法人本部の決裁後に処理を行った。また、月次報告書（試算表等）は経理規程に基づき報告を	B	措置施設であるため、入所者の増減により収入・支出金額に大きく変わってくるが、安定的な経営が行われている。また、資金管理も施設と法人本部と通帳・印鑑の管理を別にするなど適正な管理が行われており、入所者の通帳・印鑑も別々のものが管理し、内部牽制を確立させている。

		行ない、収入・支出の資金の動きを把握するだけでなく、通帳・定期預金証書との整合性を確認している。 毎月法人本部にて取引金融機関に普通預金の金額、定期預金の口座番号や金額が明記された確認書の発行を依頼した。それにより、月次報告書と照合し施設での証書等の偽造を防ぎ内部牽制を確立している。		
総合評価	B	・25 年度施設目標「笑って歩いて行こう」を全職種で利用者の支援に生かした。またラジオ体操、散歩、クラブ活動等、介護予防に努めた。 ・手洗い、うがいを呼びかけなど徹底した衛生管理に努めて 25 年度はノロウイルス、インフルエンザ感染者が一人も出なかった。 ・指定管理施設として公平な運営をするため、法人基本方針、施設基本方針を念頭において事業運営をおこなった。 ・利用者が心穏やかに生活できるように傾聴につとめ、年間を通じ利用者の余暇活動の充実を図った。 ・経理事務に関しては施設会計通帳管理者と印鑑（本部）にて別々に管理し内部牽制を行った。 ・利用者の増減により収支が変わってくるが、収支計画と事業計画との整合性を図り安定した経営をおこなった。 ・老人福祉法により定められた配置基準に則り人員配置をおこない、職員研修を計画的に実施して資質向上に努めた。 ・虐待などの環境上の理由または経済的理由での緊急ショートの受入によりセーフティーネットの役割を果たした。 ・地元第７自治会との防災協定を締結し、情報の共有、協力体制の強化を図った。	B	施設管理については、定期点検・整備により十分な施設管理がなされている。 サービス内容についても、入所者は１年のほとんどを施設内で過ごすため、充実した生活を送ることができるよう創意工夫を凝らし実施されている。 全体的には、前年度同様用に協定等と遵守し施設の管理運営が行われている。

●参考　　（単位：円）

			事業計画（当初予算）	平成２５年度
事業収支実績	収入	指定管理料	125,394,000	131,350,846
		利用料金	200,000	813,810
		その他の収入	1,250,000	1,915,906
		計（A）	126,844,000	134,080,562
	支出	人件費	70,799,000	73,298,828
		事務費	23,696,000	24,529,578
		事業費	31,342,000	31,302,693
		予備費	300,000	
		その他	707,000	3,240,400
		計（B）	126,844,000	132,371,499
収支予算額（A―B）			0	1,709,063

【評価区分】

評価基準：A（優　良）協定書、仕様書等を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。

B（良　好）協定書、仕様書等を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。

C（課題含）協定書、仕様書等を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。

D（要改善）協定書、仕様書等を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。